

まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	正色学区生活安全委員会
まちづくり活動名	しものいしきコミュニティ活性化大作戦！
活動地域	名古屋市中川区正色学区内
活動の背景	名古屋市中川区下之一色町（正色学区）はかつての漁師町で昭和初期には最盛期を迎えました。伊勢湾台風を機に漁業権を放棄した後は、賑わいは徐々に失われ、高齢化が進み、子どもの数も減少しています。そのような状況下、学区の魅力を上向きさせ、学区居住者が安心して暮らせるまちをつかっていくことを目的として、2019年4月に会を発足させました。
目的・目標	<p>（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください）</p> <p>■目的 地域コミュニティを活性化し、持続可能なまちづくりを展開すること</p> <p>■目標 目的の達成のために、以下の活動を実施します。</p> <p>① 地域に対する誇りや愛着を育む取組み ② 地域資源である「水辺」の魅力を再認識することができる取組み</p> <p>■成果 昨今、希薄になっている地域コミュニティの活性化や、特に若い世代に学区の魅力を再認識していただき、これからもこの地域に住み続けたいと思っていただくことができれば、大きな成果であると考えます。</p>
活動内容	<p>（上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。） 具体的な活動内容を以下に示します。</p> <p>① について 下之一色は、その歴史性や地域性から、地域資源が非常に豊富であることが特徴的です。同時に、それらにまつわるエピソードも豊富にあると考えられます。これらのエピソード（昔話）は普段の会話のなかで受け継がれていくものですが、高齢化とコミュニティの希薄化により、なかなか難しい状況にあると感じました。そこで、広くエピソードを募り、高齢者でも閲覧できる紙媒体で冊子にまとめることとしました。なお、多くの方に今回の企画を知ってもらうため、学区回覧、学区掲示、当委員会のホームページに掲載するなど、幅広くPRします。また、地域住民のつながりという点で、口コミでも当企画のPRを行っていきたいと思います。</p> <p>② について 下之一色は庄内川と新川に挟まれた地域であるため、これからのまちづくりにおいて、「水辺」を活かさない手はないと感じています。そこで、気軽に水面を浮遊することができるアクティビティとして注目されている「SUP」を使い、新川でSUP体験を企画しました。開催にあたっては、年に三回、新川河川敷で開催している地域イベント「いしき食堂」と同調して開催することを予定しています。</p>

活動予定 期	2023年6月～2024年2月	
助成金交付申 請額	100,000円	※1回目（上限5万円） ※2回目、3回目（上限10万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)	
<p>① 高齢化が進展する当学区において、昭和時代初期の学区の様子をご存じの方は、80代になられていることから、今の時期に実施する必要性があると考えました。さらに、今回の企画は、下之一色から移住した方も対象になります。例えば、地域でのイベントは離れて暮らしている方は参加が難しいですが、今回の企画では、各自のエピソードは郵送や電子メールでも寄せていただくことが可能です。今、住んでいる人、離れて暮らしている人、下之一色に関わる全ての人が一体になり、今回の企画を通じ下之一色のむかしを振り返ったり、みらいを考えるきっかけをつくるのが可能となることから、冊子を作成する必要性があると考えました。</p> <p>② 若い世代や家族が地域活動に参加する動機付けとして、話題性があげられます。SUPは最近、注目を浴びているアクティビティであり、蟹江町での地域イベントで体験会を開催しており他事例もあります。普段、利用している河川敷を水面から見るといふ非日常体験は地域住民にとっては大変貴重なものだと考えます。</p>	
審査基準② 実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容が具体的になっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。)	
<p>① 新年度に入り、早々にPR活動を開始しました。徐々にエピソードは集まりつつありますが、できるだけ多くの方に賛同していただけるようにPRをさらに強化します。今回の冊子は、エピソードを寄せてくれた方、学区回覧用、その他余分も含め、200部程度印刷することを前提に見積もりをとったところ、十分予算以内に収まることを確認済みです。2021年の貴センターの助成活動において、冊子の印刷製本の手順は経験しているので、委員会メンバーでの作業も十分に可能です。</p> <p>② 新川河川敷での地域イベント（いしき食堂）はこれまでに継続して開催しているので、SUP体験イベントを開催する土台はできています。また、これまでに、ナゴヤSUP推進協議会のメンバーと学区住民代表で試験的に新川をSUPで航行してみたり、新川河川敷での地域イベントのなかで、陸上に設置したSUPに触ったり立ったりする体験会を実施したり、ナゴヤSUP推進協議会と学区とのコラボで行った新川河川敷のボランティア清掃活動など、段階的に学区内でSUPに関連する活動を展開してきたため、学区役員もアクティビティとしてのSUPを理解しています。なお、安全な体験会を実現するために、子供用のライフジャケットを、今回、二着購入する予定です。（大人用は保持）</p>	

審査基準③
発展性 ・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか
 ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか

(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。)

思い出エピソードの作成により、隣近所の方々が会話をするきっかけになったり、学区外のこれまで疎遠だった方が再び、学区を気にするきっかけになったり、地域の輪が徐々に広く波及していくことを期待しています。

SUP 体験をきっかけに、水辺を活かしたまちづくりが進展し、地域の若い世代がまちづくり活動に関心を持ってもらうことができれば、持続可能な委員会活動、まちづくり活動に発展するものと考えます。

- 3 活動にあたり他団体（町内会、自治会他）、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
正色学区連絡協議会	各世帯への周知（学区回覧など）についてご協力をいただきます。
中川区役所地域力推進室 中川区社会福祉協議会	オブザーバーとして委員会に参席していただいています。適宜、情報提供や各種相談にのっていただいています。
ナゴヤ SUP 推進協議会	SUP 体験会開催に協力していただきます。

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2023	4	定例会 （毎月第四火曜日）	
	5	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード募集状況確認 （郵送、メール、口コミ、ヒアリング）
	6	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード募集状況確認 （郵送、メール、口コミ、ヒアリング）
	7	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード内容確認 （表紙・文章レイアウト検討）
	8	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード内容確認 （表紙・文章レイアウト検討） 印刷会社検討
	9	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード印刷発注
	10	地域イベント開催 （10月28日予定）	SUP体験会実施
	11	定例会 （毎月第四火曜日）	思い出エピソード完成 →執筆者へ配布、学区回覧
	12	定例会 （毎月第四火曜日）	
2024	1	定例会 （毎月第四火曜日）	
	2	定例会 （毎月第四火曜日）	
	3	定例会 （毎月第四火曜日）	

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

	費目 手引きの費目を参照	活動項目	内訳・算出根拠	金額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				100,000円
活動経費の内訳	印刷費		「わがまち下之一色思い出エピソード」冊子の印刷費 200～300部（予定）	95,000円
	物品費	SUP 体験会	ライフジャケット（子供用）2着	5,000円
支出合計				100,000円

※1ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。